

## 研究テーマ

小学校英語活動からスムーズに中学校英語に移行させるための指導の工夫

所 属	港区立赤坂中学校	氏 名	北 原 延 晃
-----	----------	-----	---------

### 1 研究テーマ設定の理由

小学校の新学習指導要領が平成23年度から本格実施される。今年度（平成21年度）から移行期に入り、全国の小学校で5，6年生への英語活動が本格的に始まった。本区では数年前から、小1から始めること、週2時間の授業、NTの常駐配置という全国でも類を見ない独自のシステムでスタートしている。全国に比べ格段に好条件で行われている本区の小英活動は文科省の言うように「英語に慣れ親しむ」というレベルを超えてさらに高い成果が期待されている。またそれを受ける中学校では従来の考え方を抜本的に見直し、効率のいいスムーズな接続を考えなければならない。以上の理由から研究テーマを設定した。

### 2 研究の内容と方法

#### (1) 新入生の実態調査

研究者が2007年度に作成・発表した「中学版 Can-Do リスト」（英検合格者の自信の度合い）のうち、中学1年生レベルの5級リストを使って新1年生に対して「できること」を調査した。この調査は4，9，12，3月と年4回実施し、生徒個々および学年全体の伸長がわかるようになっている。

#### (2) 研究先進地への視察、研究協力依頼

早くから小英活動に取り組み、全国でも屈指の先進地である京都市を訪問し、小中一貫校で授業参観と先生方の聞き取りを行った。また今後の研究協力依頼をした。

#### (3) 小学生対象のアンケート作成、実施、分析

「中学版 Can-Do リスト」を小学生が理解できるように書きかえて区内および京都市で調査した。

### 3 研究成果と提言

#### (1) 時間と金の節約、授業の効率化

入学直後の調査で90%以上の生徒がアルファベットを「聞いて分かり、読めて、書ける」ことがわかった。（表1参照）その結果、文字の指導にこれまでのような多大な時間をかけなくてすんだ。また全国どこの学校でも使っているペンマンシップ（文字練習帳）を購入する必要がなくなった。これは現在のところ日本で本区だけにできる画期的と言えるものである。

またこの調査を年4回実施することにより生徒が習熟していない学習項目があぶり出されてきた。授業ではそのような項目を重点的に指導し、逆に全員ができていくことについては時間をかけずにすんだ。この結果、授業の効率化と生徒の自学の効率化が図られた。

	20	21
読む		
1	○	○
2		○
聞く		
1		
2	○	○
3		○
4		
5		
6	○	
話す		
1		○
2		
3		
4		○
5	○	○
6		○
7		
8		
9		
書く		
1	○	○

## (2)小英活動の成果と課題を実証

ア 表2は小学校6年生児童の自信の度合いを示している。特にアルファベットの認識度が高い。したがって本区では音声のみにとどまらず、短いつづりの単語や生徒がすでにカタカナ

ことばとして身につけている単語を積極的に文字で導入することができると考えられる。

イ 「身近な語の聞き取り」「あいさつ」「謝罪、お礼」はポイントが高い。くり返し、場面が用意されて習熟していることがわかる。

ウ 一方、「定型表現」の聞き取りやまぎらわしい「曜日、日付、天候」などはポイントが低い。日本人教師やNTが習熟していない表現を聞かせる場面を意図的に作って習熟させてやる必要がある。

エ 特にポイントが低い項目が多い技能は「話すこと」である。実際にはできているのに自信がないための回答と思われるが、今以上に児童が話す場面を多く設定する必要がある。

また中学校側から見れば、入学してからあらゆる機会をとらえてQ & Aの練習をする必要がある。そして単文ではなく、複数の文を言わせる訓練も欠かせないだろう。

オ 「友だちとペアで対話」の機会を増やすこと。それがそのまま児童・生徒の話す活動時間を確保することにつながる。

### 4 今後の課題

恵まれた港区の教育環境でもっと児童・生徒を伸ばしたいと切に思う。そのためには小学校教員と中学校英語教員がもっとお互いの授業を見合い、児童・生徒のゴールを見つめて語り合うことが必要だ。

最後になりましたが、今回研究に協力してくださった京都市立小中一貫校、港区内9つの小学校と研究の機会を与えてくださった港区教育委員会に対して深くお礼を申し上げます。

		合計		割合		
		港区	港区	京都市	京都市	
読む	1	365	84.1%	234	97.5%	
	2	392	90.3%	239	100%	
	聞く	1	293	67.5%	234	98%
		2	366	84.3%	240	100%
		3	352	81.1%	239	100%
		4	325	74.9%	223	93%
5	329	75.8%	232	97%		
6	353	81.3%	239	100%		
話す	1	365	84.1%	239	100%	
	2	335	77.2%	239	100%	
	3	321	74.0%	238	99%	
	4	362	83.4%	236	98%	
	5	397	91.5%	235	98%	
	6	355	81.8%	239	100%	
7	146	33.6%	211	88%		
8	185	42.6%	224	93%		
9	252	58.1%	224	93%		
書く	1	337	77.6%			
調査数		434		240		